

学び深める懇話会に

岡山で来年9月27日～28日開催

認知症と共生のまちづくり



9月12日、第2回実行委員会が岡山ひだまりの里病院で開かれました。前回実行委員会で、来年9月27日～28日、岡山市内での開催を決めた第9回全日本民医連認知症懇話会。この日はテーマや内容などを話し合いました。

懇話会の内容に関し、7月の西日本豪雨災害で被災地から患者を受け入れた経験から「災害時の認知症患者さんと家族へのフォローを学べれば」と話す介護福祉士の委員。調剤薬局の委員からも「認知症の方の服薬は大切な課題。法人内でも学習をしているが、全国の経験も知りたい」などの意見が出されました。

認知症へ取り組みを前進させる懇話会。出された意見も踏まえ、懇話会のテーマを、全ての職種参加で認知症と共生できるまちづくりをイメージすることにしました。

参加してよかった懇話会に

懇話会では先進的実践を学ぶ記念講演を設けることとし、そのほか全国の取り組みを学ぶ分科会やシンポジウムなども検討。また、全国からの参加者が積極的に意見や質問できるように、実行委員会で工夫をしていきます。「参加してよかった」と感じてもらえる懇話会を目指して頑張りますので、みなさんのご参加をお待ちしています。



成功への抱負を語る藤田実行委員長(左)



地域に開かれた認知症病院 ～実行委員会で、ひだまりの里見学～

第2回実行委員会の日、実行委員で会場の岡山ひだまりの里病院を見学しました。ひだまりの里は1999年開設の認知症専門病院。入院(認知症120床、精神60床)と外来診療・作業療法、デイケア、訪問看護を行っています。「職員不足で、できていないことも多い」と話す職員さん。一方で、友の会の活動やまつりなど、地域に開かれた病院として患者・家族、地域に信頼されています。